

県内復興・経済日誌（2019年10月）

1日

《消費税10%スタート》

5年半ぶりに消費税率が8%から10%に引き上げられた。食品などに適用される軽減税率や、キャッシュレス決済による国のポイント還元制度に対し、県内の店舗や消費者から困惑や不満の声も上がった。

《全国醤油品評会、本県入賞数日本一》

日本醤油協会が、第47回全国醤油品評会の結果を発表した。本県からは最高賞の農林水産大臣賞に次ぐ食料産業局長賞に、山形屋商店（相馬市）の「ヤマブン本醸造特選醤油」、ヤマボシ醤油（白河市）の「ヤマボシ醤油 吟上」が輝き、優秀賞には4点選ばれた。本県の入賞数6点は過去最多で、都道府県別入賞数で“日本一”となった。

3日

《水族館ランキング、アクアマリンふくしま6位》

旅行口コミサイトを運営する「トリップアドバイザー」が、「日本の水族館ランキング2019」のトップ10を発表し、アクアマリンふくしま（いわき市）が6位に入った。同館のトップ10入りは4回目となった。1位は6回連続で沖縄美ら海水族館（沖縄県）だった。

5日

《二本松の提灯祭り、100年ぶりに日程変更》

二本松の提灯祭りが、5日から7日まで行われた。提灯祭りの起源は江戸時代初期に遡り、大正時代から約100年間は、開催日を二本松神社の例祭日「4日～6日」としていたが、祭りの担い手の確保と観光客の増加を狙い、今年から「10月の第1土・日・月曜日」に変更された。

7日

《「テロワージュふくしま」始動》

県産酒と県産食材を組み合わせた料理を開発

し、福島の新しい食の楽しみを発信する試み「テロワージュふくしま」が郡山市で始まった。県内の飲食店や宿泊施設の関係者、生産者などが共同で事業に取り組む体制をつくり、観光誘客につなげる。浜通り、中通り、会津それぞれの特長を生かしたテロワージュコース（懐石）を作るなどして国内外に情報を発信し、ブランド化を図っていく。

8日

《昭和村、「日本で最も美しい村」に加盟》

昭和村は、農山漁村の景観や文化を守り地域の自立を目指す全国組織「日本で最も美しい村」連合の承認を受け、同連合に加盟したと発表した。国指定伝統的工芸品のからむし織の文化や、カスミソウなど村の地域資源が評価された。全国64団体が加盟しており、県内では飯館村、北塩原村、三島町、大玉村に続いて5件目となる。

9日

《いわき市久之浜地区、復旧・復興事業完了》

県がいわき市久之浜地区で進めてきた、沿岸部に防災緑地などを整備する復旧・復興事業が完了した。同市内では同地区を含め7地区で同様の事業が進められてきたが、全て完了した。本年度内に完了予定の相馬市原釜・小浜地区を最後に、県内沿岸部全ての事業が終了する。

《郡山のIT企業社長、東北地区アントレプレナー賞受賞》

優れた起業家を表彰する「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2019ジャパン」の東北地区の表彰式が仙台市で行われた。本県から候補に選ばれていた、ウェブシステムやスマホアプリ開発のIT企業プレイノベーション（郡山市）の菅家元志社長が、東北地区アントレプレナー賞を受賞した。

13日

《台風19号、東日本縦断》

東日本を縦断した台風19号の影響で、県内は記録的な豪雨となり、河川の氾濫や土砂崩れなど被害が相次いだ。国管理の阿武隈川が郡山、須賀川、本宮、伊達の各市で氾濫、県管理河川で氾濫したのは宇多川（相馬市）、新田川（南相馬市）、夏井川（いわき市）など19市町村の25河川。道路は国道4号や6号、13号の一部で、県管理の道路は289カ所で通行止めとなった。

15日

《白河市に東北最大級のメガソーラー建設》

ふくしま未来研究会（福島市）、信夫山福島電力（福島市）、ジャパン・リニューアブル・エナジー（東京都）の合弁事業体である合同会社「白河ソーラーパーク」は、白河市大信増見地内に東北最大級の大規模太陽光発電所を建設する。出力は約74MWで2021年12月末の運転開始を目指しており、現地で起工式が行われた。

22日

《天皇陛下即位を宣言》

天皇陛下が即位を国内外に宣言される「即位礼正殿の儀」が皇居・宮殿「松の間」で執り行われた。一連の即位礼儀式の中心となる国事行為の儀式で、186の国と5つの地域・機関の代表423人や国内各界の代表ら計1,999人が参列した。県内でも、福島市役所本庁舎西側玄関内に設置された記帳所にこの日221人が記帳に訪れるなど、各地で喜びと期待の声が上がった。午後には予定されていたパレード「祝賀御列の儀」は台風19号の被害に配慮し、11月10日に延期された。

24日

《新規就農者数212人》

本県の昨年5月2日から今年5月1日までの新規就農者数は212人で、5年連続で200人を超えたと県が発表した。男女別に見ると、男性が166人（78%）、女性が46人（22%）となった。就農区分別では、県内農家の後継者以外で新たに農業を始めた「新規参入」が117人で最多と

なり、全体の約55%を占めた。

25日

《国見町、備蓄用食品開発へ向け防災事業に参加》

国見町は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）などが進める防災事業「BOSAI SPACE FOOD PROJECT」に参加すると発表した。同プロジェクトは昨年8月に、JAXAと災害備蓄食を手掛けるワンテーブル（宮城県）が発足させた。県内自治体の参加は初めてで、今後、同町特産のモモを使った食品開発などを行う。

29日

《8年7カ月ぶりに養鶏場を再開》

鶏卵業界最大手のイセ食品（埼玉県）のグループ企業「はやま農場」は、田村市船引町に新設した養鶏場で、東日本大震災から約8年7カ月ぶりに操業を再開し、同市で完成記念式典が行われた。新養鶏場は国内最大規模で、80人程度の新規雇用が見込まれる。同社は川俣町山木屋地区で養鶏業を営んでいたが、東京電力福島第一原発事故の影響で操業を停止していた。

30日

《飲む“古関メロディー”発売》

福島市唯一の造り酒屋「金水晶酒造店」は、同市出身の作曲家古関裕而にちなんだ純米大吟醸酒「古関メロディー」を発売した。表ラベルと化粧箱には古関が福島盆地を描いたイラストを使用し、裏ラベルのQRコードをスマートフォンで読み取ると、同市の古関裕而記念館のホームページから“古関メロディー”約5,000曲のリストを見ることができる。

31日

《外国人雇用、課題は「意思疎通」》

県は、外国人労働者の雇用に関する県内企業への初の調査結果を公表した。外国人の雇用理由は「人手不足への対応」が70.5%と大半を占め、各種産業で担い手確保のため外国人を迎えている実態が明らかになった。雇用の課題は「コミュニケーションがとりづらい」が34.8%で最多となり、「思ったよりコストがかかる」29.1%が続いた。